

は酢酸(100)に極めて溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

本品は希塩酸又は水酸化ナトリウム試液に溶ける。

本品1.0gを水100mLに溶かした液のpHは2.8～3.5である。

融点：約252°C(分解)。

#### 確認試験

(1) 本品の水溶液(1→5000)5mLにニンヒドリン試液1mLを加え、60～70°Cの水浴中で5分間加温するとき、液は黄色を呈する。

(2) 本品0.05gを酢酸(100)5mLに溶かし、臭素試液0.5mLを加えるとき、試液の色は直ちに消える。

旋光度  $[\alpha]_D^{20} : -13 \sim -17^\circ$  (0.5g, 水, 50mL, 200mm).

#### 純度試験

(1) 溶状 本品0.10gを水10mLに溶かすとき、液は無色透明である。

(2) 塩化物 本品0.5gを白金るつぼにとり、炭酸ナトリウム試液5mLを加えて溶かし、水浴上で蒸発乾固した後、徐々に加熱し、ほとんど灰化するまで強熱する。冷後、希硝酸12mLを加え、加温して溶かした後、ろ過する。残留物を水15mLで洗い、ろ液及び洗液を合わせ、水を加えて50mLとする。これを検液とし、試験を行う。

比較液：0.01mol/L 塩酸0.30mLに炭酸ナトリウム試液5mLを加え、以下同様に操作する(0.021%以下)。

(3) 硫酸塩 本品0.5gに水40mLを加え、加温して溶かし、冷後、希塩酸1mL及び水を加えて50mLとする。これを検液とし、試験を行う。比較液には0.005mol/L硫酸0.30mLを加える(0.028%以下)。

(4) アンモニウム 本品0.25gをとり、試験を行う。比較液にはアンモニウム標準液5.0mLを用いる(0.02%以下)。

(5) 重金属 本品1.0gをとり、第2法により操作し、試験を行う。比較液には鉛標準液2.0mLを加える(20ppm以下)。

(6) ヒ素 本品1.0gを希塩酸5mLに溶かし、これを検液とし、装置Bを用いる方法により試験を行う(2ppm以下)。

(7) アミノ酸又は他のイミノ酸 本品0.10gを水10mLに溶かし、試料溶液とする。この液2mLを正確に量り、水を加えて正確に100mLとする。この液1mLを正確に量り、水を加えて正確に20mLとし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液10μLずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に水/1-ブタノール/酢酸(100)混液(5:4:1)の上層を展開溶媒として約10cm展開した後、薄層板を風乾する。これにニンヒドリンのアセトン溶液(1→50)を均等に噴霧した後、80°Cで5分間乾燥するとき、試料溶液から得た主スポット以外のスポットは、標準溶液から得たスポットより濃くない。

乾燥減量 6.5～8.5%(1g, 105°C, 4時間)。

強熱残分 0.1%以下(0.5g)。

定量法 本品を乾燥し、その約0.4gを精密に量り、温湯

50mLに溶かし、冷後、0.1mol/L水酸化ナトリウム液で滴定する(指示薬：プロモチモールブルー試液10滴)。

0.1mol/L水酸化ナトリウム液1mL = 21.323mg C<sub>10</sub>H<sub>16</sub>NO<sub>4</sub>

貯 法 容 器 気密容器。

## 過テクネチウム酸ナトリウム(<sup>99m</sup>Tc) 注射液

Sodium Pertechnetate (<sup>99m</sup>Tc) Injection

本品は水性の注射剤で、テクネチウム-99mを過テクネチウム酸ナトリウムの形で含む。

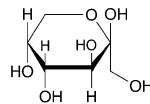
本品は放射性医薬品基準の過テクネチウム酸ナトリウム(<sup>99m</sup>Tc)注射液の条に適合する。

本品には注射剤の不溶性微粒子試験法を適用しない。

性 状 本品は無色透明の液である。

## 果糖

Fructose



C<sub>6</sub>H<sub>12</sub>O<sub>6</sub> : 180.16

$\beta$ -D-Fructopyranose [57-48-7]

本品を乾燥したものは定量するとき、果糖(C<sub>6</sub>H<sub>12</sub>O<sub>6</sub>)98.0%以上を含む。

性 状 本品は無色～白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は甘い。

本品は水に極めて溶けやすく、エタノール(95)にやや溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

本品は吸湿性である。

#### 確認試験

(1) 本品の水溶液(1→20)2～3滴を沸騰フェーリング試液5mLに加えるとき、赤色の沈殿を生じる。

(2) 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法のペースト法により試験を行い、本品のスペクトルと本品の参照スペクトルを比較するとき、両者のスペクトルは同一波数のところに同様の強度の吸収を認める。

pH 本品4.0gを水20mLに溶かした液のpHは4.0～6.5である。

#### 純度試験

(1) 溶状 本品25.0gを水50mLに溶かすとき、液は透明で、液の色は次の比較液より濃くない。

比較液：塩化コバルト(II)の色の比較原液1.0mL、塩化鉄(III)の色の比較原液3.0mL及び硫酸銅(II)の色の比較原液2.0mLの混液に水を加えて10.0mLとした液3.0mLをとり、水を加えて50mLとする。

(2) 酸 本品5.0gを新たに煮沸して冷却した水50mLに溶かし、フェノールフタレイン試液3滴及び0.01mol/L水酸化ナトリウム液0.60mLを加えるとき、液の色は赤色